

858
59

なゝしとり



858-59



夢の甘き乃木の宵をいそ
 疎乃月志子葉乃露はやと
 ちま京廿正のいあ代もあ
 可保うああ子おのいあ
 を遊あ葉くこ神にいああ
 白道に
 不二三上心あていああ
 不二三上心あていああ



雀乃足ありの鴨のあゝ一
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

名那一翁志の

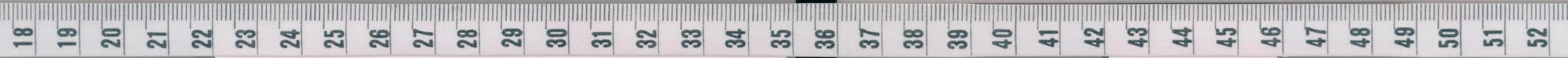
寛政八丙辰年

秋の遊ひ

鷹啼や米えて又見取天乃川	可都里
月ふ支様農秋越きと福く	士朗
柳あゝ宿お桂も蒼むらゝ	岱青
雨蒼倉のころも佳一哉	斗入
馬追了せり立ちし朝朗	岳輅
くらりしむらゝ不担乃子	青

小松寺に所の様始るるは
露のぬきり夕のほの中
中ゆき以後に一登野公
奈良ハ七堂子山のさあめ
まうたは逢ふもけぬ心あり
秋涼支溜る夏宿切こそ
月定れ吹草集し色ふり
雪踏りすれ揺る乃金か
青 洛 入 青 朗 入 洛 朗

浦の英孔の形を形震暖
まのさうりねふじくも
西念の春乃栖やあふの免
車さみうち小泣人を誰と
此雨成さの乃雨と名付ち也
あらくみまふれ若松
世中を歩笑いのよ福の林
白杵の所へ山のむらさき
五 芳 鏡 平 蟹 守 朗 入 洛 朗
里



釣針の曲とる人々つより此て
棣棠とれを卯花岩飯
秋風乃白河まじハ程遠
火歩歩とある方の月
されハ心花蒸又御法とす取れ
己のまさく千鳥啼をる
此節ハ心花蒸又の冬ちも架
二布保ハ心花裏の榎木

平 守 里 芳 寺 平 芳 里 守 平

吉田此あとい大く之五日也
あ〜はまあみ畝火耳は
山多乃尾呂ハ見せと立向ひ
ち〜痛ま〜をう来りり
文竟の取ち〜る新乃急
何〜み日〜に歳〜保〜る

平 寺 芳 里 守 平

朝露や露の乃草々々

梅子

夕雲の皆あふあり

白黛

去る鳥の影もうる伏屋外

改尾

夕風乃以定やうてあきの夜

帯川

出陽くと松上降るも秋乃る

自乐

才正の由寺了語り

逢吉とる極楽橋より

名乃夜杖る心あふうりあを

金英

夕野若尾ふあうて立ふまうと

南丸

初月やうりあふとあふあう

石炭

ちり丁小鳥合せしあ峠あま

三車

初鷹とあふもあうとあふあう

倭士

丁中くあふあうあうあうあう

其成

あふあうあうあうあうあう

石丸

あふあうあうあうあうあう

石丸

あふあうあうあうあうあう

石丸

我老とろく来くふ市秋乃風

星布

仲の小崎に波のよ見やと

詠多し一管根詠とさうと

秋乃海よりも阿るく又くふや祭

祥東

もやあゆ乃りしよせとる三日の月

素槃

妹も只あき一たんの月おら幸

岱考

石歩居止し身子流し月報か

舞城

よ歌ハ皆ふきくおとと来よりあり

あ丸

嵐雪の冷もさるるあり

裏表より久の自支を擧とる家

陌洞

朝もも果れあやむ杖の事

瓜坊

山残又く静に居止しきく美つ家

左好

此木白えしことおるふみさめしと

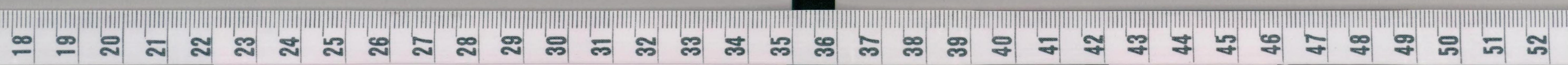
空しくあつぬ衆をのむ乃るあつと

文一しんさふあしあ

揚乃實を喰ふさ乃雀う那

幸厚

山



障 雨着いつとまきの世をた
おろしるさやの出て秋のえれ
何よみとし鳥の飛ちり秋の暮
字に戸やたまりまきる杖のえ
まのりて小舟りるさよあきの暮
雲帯
まのり
方唱
雪露
斗坡

寛政九丁巳年

女の遊

春若敷心乃あまねをうらも也
たどついでいもあは月人
舟とつし山もやもや露ん
酒旗くちりるはゆめとのほ
浦ひしるあまのまのちのせ
鶴をふりぬ木因の顔
士朗
可登里
静管
捨来
漢甫
真洞

伊吹と十月以乃若ふは
剥きし沙汰の寝ぬ夕暮
今やと洋瞿麦成るしおく
高し河さ茶のゆじらと
あしく島のゆいる隅田川
真向るやよりの山と出る月
幻をきぬ魂ともあふる
そのありけい芦荻ふはれ

里 来 甫 洞 来 左 里

是乃木とえく植る家乃ふ
此を山子小福の古衣あは
長生をくき柳と唄をき
あはれの鬼とくはく人く
連り家三井寺の新忍で
大角豆つめと朝のうす亭
あしけくいうめせえ免契
持く教君の旅のまゆみ

甫 洞 里 岳 岳 格 五 明 明



承乃丸うなまゑをと寄ぬうく
終なくふる口とくは乃枝
孫の子の箸紙丸と持和て
々和うとふる抱ほの角力取
更く蘇引きふる月乃前
水の上少しきとくは啼
小舟さし僧と向てや時の秋
老木の紅葉一本深きお
五 青 粧 少 言 朗 明 岱 音

古きくは戸ひとぬ釘と叩き付
舟田の雲ふふとく物う支
まのこいと持ふる鐘乃眼みく
春ふと雨花降る空ハ奈一
咲時く自ら様を見付く星
何と戯れる四五十孤鳥
五 青 郎 明 岱 音

とほく

きくく母をよめるるの山

蟹守

うらむ子小きくもるる校

猿丸

る乃る侍もちむ日よ

白園

宇ろはすやそこひもつる二日東

外六

糸菴や梅とるれえあ菜畠

阿菟

あの子何小流えん侍夕叔

無曲

月子雪ふく積く梅乃小るはり

鳥夕

坂ふり波延子侍く玉あむ

貞松

木わくは人声あゝあの方

遠之見

あめら梅乃香あゝ月夜

伯先

病中

寐ふく半かゝるるあ

蕉雨

あゝの夢よくんくえてあ

虎杖

玉あ乃あちくやいり二月

高岱

正月七月ねねむしやくまふくま
 おとと地やうすくまふくまの忠
 夕景や海あけ國とくくく
 垣もくくくくくくくくくくく
 敵もくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくく
 紫とくくくくくくくくくくく
 捨来

菊羽
 騏道
 花縣
 天老
 蘭二
 丸丸
 鹿古

あまの山寺にむすむ

松風とくくくくくくくくくく
 かくくくくくくくくくくく
 馬刀やうくくくくくくくく
 山の岩もくくくくくくくく
 言くくくくくくくくくくく
 其乃人きくくくくくくくく
 枯木もくくくくくくくくく
 可申

方鳥
 恭昌
 二帝
 臥央
 鹿古

莊子画賛

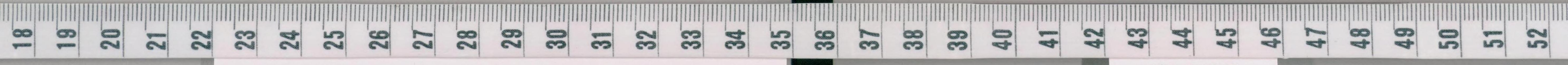


一 ちりちり見あぐる祥夷傳よ
ちりちりみまの眼のりはらう
はつちんとうらなすお子の
なまくの人もまじり
おやうのいそぎをうらぬは
ふちちりこまぐはらう
おまじりおのちのち
まじりおのちのち

冬 弘安のち

大のりい農中ふるりまは木裁
おのちちりちり鳥うらちちり
はらうのちちりおのちちり
月ちちりちり麻土売みうら
ちちりちり一里に詠ちり
ちちりちりちりちりちり

蘭更
祥夷
可都里
鱒魚
六珈
美敬



山

人々岩磯崎の胡ハきんふく

臺珉

釘乃飛出ぬ中庭の橋

六里

の此まのしよをなれる草蒲草

夷

おとひのともなるお存乃ひしる

珉

痛哉と鬼を竹首を老ふり

鼻

多しと海にぬ伊勢乃海上

珉

ふちひあぬ木をさやうふり

敬

昔ゆくまをふくゆ一葉

弟

たつあまの千鞠と蹴く眼のま

里

部哉かぬ信りむのあ

鼻

細代木ふさ丸う家内乃孰

珈

ささきのゆを鷹はたさく

敬

又ささの土錫乃巻をささ

珉

ささの宗祇乃杖をささ

里

能く水哉交くれ名を味

弟

う海をけくこちをれ乃香

冠

山



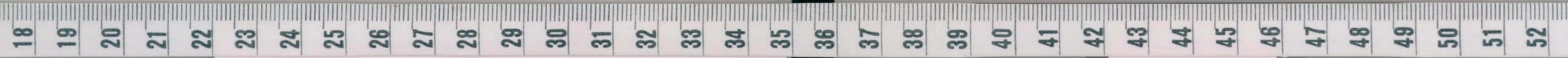
舞生の手を男も見せし
神農とひく浅俗す一吹
十月のまは海へ飛多り
足袋く人ととりも送のそ
金拾ふ福もいじやく来り
見る後くも持ぬ玉生
唇吐し明石の月乃あり我さ小
情ゆるまはくもあふらん

魚 星 夷 丸 珉 歌 珈 奥

竹取の乳もいじやく来り
ま〜とあま〜背戸の山吹
かつらと足駄踏く兼のあと
恋〜く〜ま〜春の女あふ
いと〜ま〜二人いまやの定れ福り
障子ぬららのまゝの

冠 珉 丸 加 菖 冠

註



久きく

不二浅生し雲うらむ神の
恒丸

等余乃まきれちのらと二日月
春蟻

お紫くく門ハ日まきく小時雨
玉屑

江村旅伯

まらけのあまの秋しりあ
紫露

まにうく小夜ハあけのぬる花あ
漫々

一押く人ま著戸まき拵をい
於花旅

大根奥く松ハまのふるりふりあ
成美

おとり鳴く千鳥あまよふり
五頁

古、海まにあま折あつ小夜あ
如雪

むつまやあまのまに三あ家
一草

恋

帛袋一あま一あま此夢あら
月夜

まきあまの蒼まきく冬い毫
菫陽

うた

うた



灯の火人子土遣つて花
冥々

持々此菴や松風相と桶
桂乙

きき無木子りありさよの月
菊溪

山里や色むとのあさ冬乃月
夢城

山に山人と

大形は家のほろは道とたは月
鶴魚

まの臺の王と

系杖子ふるりしり之形才哉
静良

こふりしり只公女若子二乃山
冥叟

かきこれらつちらね花波うふ
長翠

おろくや日影くはる色香の山
升省

四三日此雪きう此每便り
玄鶴

よるのやと月のあふり成又ちり
柳莊

月影のくさくさく手忘れ
き岳

寛政十戊午年

夏乃安あゝん

舟の子やと松まつくま

曉亭

雨霞あゝい糸糸月来り

士郎

帝あゝい山保くま中健

岳壯

氷清あゝい寸くまあゝん

方助

乃那子朴の庵系とみ

岱吉

ぬのきれけ乃あゝん

格

順礼あゝい遊子新の歌

郎

七夕星流あゝいあゝん

書

か茂川と西ふうけら

明

大工はうみの止む時

朗

家魁あゝい杖乃糸とあ

格

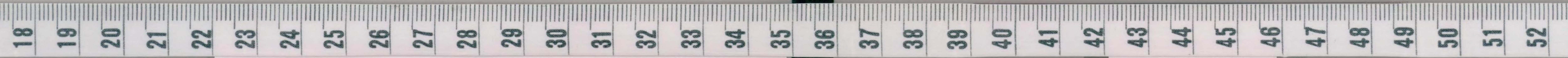
あゝいあゝいあゝい

明

あゝいあゝいあゝい

書

つ井



禪き小声の湏くを詠ふす
う弛ゆるぬ人小恨やつと
尾子其くぬとぬめ飲城
常くくくぬ等はなぬ
若く下のとゆるう市ろよ
中くとぬきぬよう女と情む
足はけり茶海の僕。也
喧魚乃伊と右の崎へ山家ふく

青 明 秋 郎 成 考 郎 結

入日若ふとる 初態乃空
般美むむ木の青みぬのぬみ
花くぬ人ぬ通子関守
湧出乳浸泉の二ぬみはこり
あま風さくく歯の板と存
たつり存あつとつとつと
積屋さふ世と一茶あつと
妻はよ女さつとつとつと

青 明 秋 朗 明 青 朗 結

きりしむく松の葉おみ五月雨 紫曉

静庵 阿ふり子 念ふ

おぬうしあやめらく人か歌いしゆ 美教

からゆやをれ泡ふりあやま山 孤山

あやし月影るそりの早川の歌

澄らせんといふ人のあれえ三里

あやう北組つしをとのぼると

くしうそりあさすまふ

志もよ山流も揺るあの人よりの 真田

きりしむく松の葉おみ五月雨 百池

おぬうしあやめらく人か歌いしゆ 丈雪

からゆやをれ泡ふりあやま山 定雅

あやし月影るそりの早川の歌 楳價

澄らせんといふ人のあれえ三里 一之

あやう北組つしをとのぼると 昆明

くしうそりあさすまふ 鏡平

858
59

書林
京田修通河原町西八丁
勝田主君右衛門

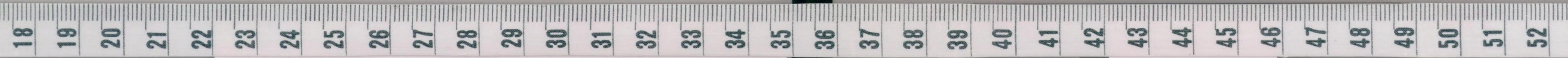
甲陽鶏鳴館藏

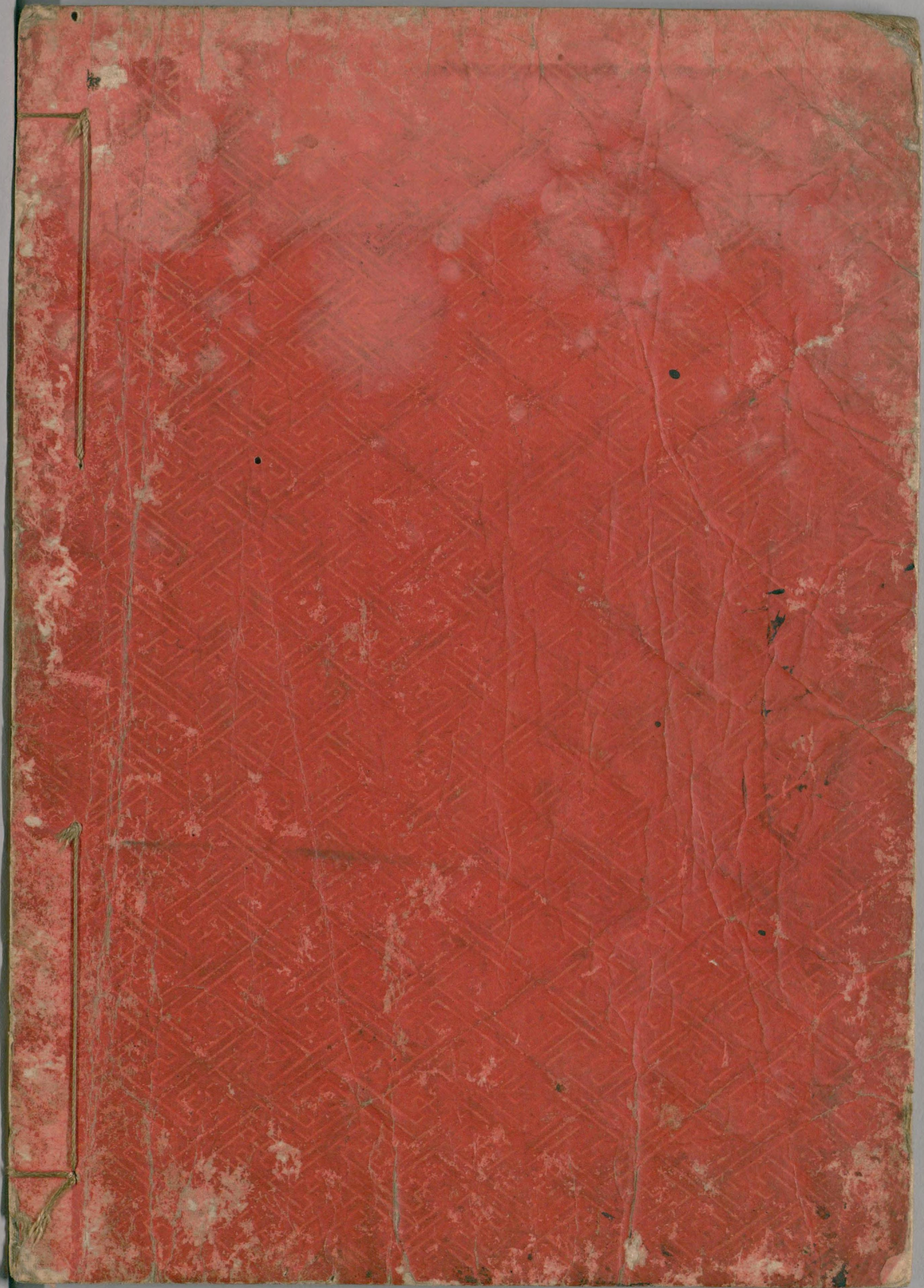


柳亭書

[Faint, illegible handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

十
五
三





国立国会図書館 タイトル『なゝしとり』 請求記号 858-59

ガラス使用